

令和4年度当初予算編成における調製方針

令和3年12月3日

市長

1 国の動向と地方財政の状況

新型コロナウイルス感染症につきましては、今年度においても人々の暮らしや経済活動に多大な影響を及ぼしており、医療提供体制の強化やワクチン接種をはじめとする対策を講じてはおりますが、未だに収束には至っておりません。

国においては、新型コロナウイルス感染症対策として、感染状況や経済的な影響を注視し、引き続き、事業継続や雇用確保など生活の下支えとなる支援策を展開し、状況に応じて、予備費等を活用しながら臨機応変に、かつ、迅速に対応するとしているほか、コロナ禍において生まれた新たな生活様式への移行の流れを踏まえ、テレワークやビジネス形態の変化など、「新たな日常」の実現に向けた取組についてもさらに加速させていくとしています。

また、地方においては、活力ある地域社会の実現を目指すため、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、コロナ禍を契機に動き出した地方への関心の高まりやデジタル化などの社会変革を踏まえ、新たな地方創生を展開することに加え、近年頻発化している災害に対応するため、国土強靱化対策を強力に推進することが求められています。

こうした中、国は、令和4年度における地方の歳出水準について、地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源の総額を、令和3年度地方財政計画と同水準で確保するとしております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響が長引く中、新たな財政需要の拡大や税収への影響も懸念されるところであり、今後の地方財政を取り巻く環境は、依然として不透明な状況にあります。

2 本市財政状況と今後の見通し

本市の財政状況につきまして、歳入では、新型コロナウイルス感染症が長期化する中、市税等の動向についても予測が困難であることに加え、人口減少や高齢化の影響により、一般財源の確保において例年以上に厳しい状況にあります。

一方、歳出では、高齢化などを背景に社会保障関連経費が、高い水準で推移する中、公債費については、過去の大型建設事業に係る償還の本格化に伴い、近年増加が続いています。また、老朽化した施設の維持補修費などは引き続き増加が見込まれており、予算編成においては大幅な財源不足が生じることが懸念されているところです。

こうした中、一定水準の市民サービスの維持と新型コロナウイルス感染症対策を両立しつつ、将来にわたり持続可能な行財政運営基盤を確立するためには、長期的な収支の均衡を保つことが不可欠であり、施設の統廃合やデジタル化の推進による業務の効率化など、あらゆる手段を用いた行財政改革の推進により、早期に歳入規模に見合った歳出構造に転換することが求められています。

3 予算編成の基本的な考え方

このような状況を踏まえ、歳入の確保及び歳出の節減に最大限の努力をすることとし、効果的で効率的な事業の在り方について、各部内で創意工夫を図るとともに、事務事業の見直しに努め、これまで以上に「選択と集中」を徹底した上で、予算要求をしてください。

その上で、令和4年度予算編成における基本的な考え方は以下のとおりとします。

① 基本的な取組

基本的な取組の考え方として、新型コロナウイルス感染症の影響など社会情勢を踏まえ、全ての事業の効果や手法等を再点検し、市民との連携・協働、制度や仕組みの改善・創設・廃止などあらゆる創意工夫に加え、各事業については、効率的かつ効果的な実施に努めるとともに、事業のスクラップ・アンド・ビルドの徹底により、所期の目的を達成した事業や成果が上がっていない事業、必要性が低下した事業は、事業全体を検証し、多様化する行政ニーズに伴う新たな事業を実施していくため、事業内容・規模をゼロベースで見直すことを求めます。

② 主要事業

令和4年度は、山陽小野田市のまちづくりの基本となる「協創」の理念のもと、第二次山陽小野田市総合計画の中期基本計画に掲げる重点プロジェクトに係る事業、横断的施策として位置付けたデジタル化の推進を図る事業、山口東京理科大学と連携して取り組む事業及びスマイルエイジング関連事業を優先的に取り組むこととしております。

また、引き続き感染状況に留意する中で、必要に応じた新型コロナウイルス感染症対策事業を実施していくこととします。